

2013 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

Graduate School of Human Development and Environment



2013年4月、人間発達環境学研究科は改組を予定しています。そこでは、「心身発達専攻」「教育・学習専攻」「人間行動専攻」「人間表現専攻」の4専攻を統合し、新たに「人間発達専攻」を設置することを計画しています。このリーフレットでは、その新専攻の概要を紹介しています。なお、その計画に変更があった場合は、人間発達環境学研究科ホームページ(<http://www.h.kobe-u.ac.jp>)にて適宜お知らせします。

人間発達環境学研究科は、2007年(平成19年)に設置されて以来、「人間それ自身の発達」と「発達を支える環境の発展」に関わる教育と研究を積極的に推し進めてきました。

そして、2013年(平成25年)春、本研究科では、人間発達研究のさらなる飛躍をめざし、教育と研究のバージョン・アップを計画しています。

(現在設置認可申請中)

今、求められる「人間発達研究」～21世紀の根本的な問いに具体的な解を導くために～

世界のあちこちで様々な紛争や災害が頻発し、人間の自由な発達が阻害される深刻な事態が広がっています。とりわけ、東日本大震災では、おびたしい数の「生」が突如行き場を奪われ、絶望の淵へと追いやられる経験をしました。私たちは、今、人間の発達(human development)とは何か、そして、本来あるべきその姿にいかにして近づいていくか、という根本的な問いと向き合い、より実践的な観点から早急に具体的な解を導かなくてはなりません。

4専攻を統合し、教育と研究を高度化・総合化～人間発達研究の新たな一步を踏み出すために～

人間発達環境学研究科は、21世紀になって現れたこの難題に取り組むため、これまで進めてきた「人間それ自身の発達」に関わる教育・研究のあり方をさらに高度化、総合化していきます。現在設置認可申請中の計画では、2013年(平成25年)4月より、現在の「心身発達専攻」「教育・学習専攻」「人間行動専攻」「人間表現専攻」という4つの専攻を統合し、これまで蓄積したそのエネルギーを「人間発達専攻」という1つの専攻に集中させることで、人間発達研究の新たな一步を踏み出そうとしています。



人間発達環境学研究科を支える“車の両輪”～変容する今日の状況に柔軟に対応するために～

今回の改組で、「人間環境学専攻」の体制を変更することはありません。しかし、こちらの専攻も、急激に変容する今日の状況に柔軟に対応するためパワー・アップを図り、「人間発達専攻」とともに人間発達環境学研究科を支える“車の両輪”として、これまで以上に充実した教育・研究を提供していきます。



「人間発達専攻」博士課程前期課程の設置イメージ

専攻	履修コース	定員		専攻	履修コース	定員
心身発達専攻	心理発達基礎論コース	18名	▶▶▶	人間発達専攻	新しい専攻では、履修コースは設定されません。ただし、「臨床心理学コース」と「1年履修コース」は開設されます。	56名
	臨床心理学コース					
	健康発達論コース					
教育・学習専攻	教育科学論コース	18名				
	子ども発達論コース					
	発達支援論コース					
	発達支援論(1年履修)コース	4名				
人間行動専攻	身体行動論コース	6名				
	行動発達論コース					
人間表現専攻	表現文化論コース	10名				
	コミュニティアートコース					

(2013年4月実施予定)

「人間発達専攻」の教育上の特色

本専攻では、教える側に立つ従来型の教育プログラムではなく、学ぶ側の立場に立ち、学生自らによる主体的な創造的取り組みを尊重し支援する教育プログラムを採用します。

“学問領域複合型人間発達研究”の有効性 ～人間の発達の実像を解き明かすために～

人間の発達は、すべての人がもつかけがえのない個性を前提とする概念です。一人ひとりの人間は、様々な潜在能力をその人に固有の道筋で開花させていくのであり、それを人間の発達と呼ぶことができます。ですから、実際に現れる発達の様相は、とても多様で複雑です。「人間発達専攻」は、一筋縄では捉えられない人間の発達と向き合おうとすると、関連する学問分野が相互につながり、それぞれに蓄積された学問的知見を有機的に結び付ける“学問領域複合型人間発達研究”こそ、発達の実像の解明に効果的であると考えています。



研究課題に応じた学生自身によるコース・ワークの設定 ～独自の視点から人間の発達を理解するために～

「人間発達専攻」では、履修コースをあえて設定していません。それは、学生自身が、既成の概念にとらわれることなく、それぞれの問題意識に基づき独自の視点から人間の発達を解明することを期待しているからです。そのため、本専攻には、心理学、健康科学、体育学、芸術学、教育学等、多岐にわたる専門科目を置き、学生が研究課題に応じてそれらを組合せ、自分自身のコース・ワークを設定できるようにしています。

既に現れつつある“学問領域複合型人間発達研究”

- 「ライフストーリーの中での病いの意味」
- 「音楽療法における＜聴取＞－意味の生成と共有－」
- 「リサイクル広告が環境配慮型行動に及ぼす効果についての一考察」
- 「競技スポーツ選手における音楽を用いた心理的コンディショニングづくり」
- 「大学生における身体感覚と心理的 well-being の関連」

(過去の修士論文から)



専攻共通科目の設置ときめ細かな指導体制 ～より高い専門性を確保するために～

「人間発達専攻」には、自由なコース・ワークを支え専門性を確保する仕組みが用意されています。そのひとつが、共通科目の設定です。本専攻には、「人間発達総合研究Ⅰ・Ⅱ」や「人間発達研究」などの専攻共通科目が置かれ、人間発達研究の視点や研究方法の多様性を学習するとともに、それぞれがとるべき研究上の位置や方向を理解できるようにしています。また、学生の専門力量を高めるため、従来の「心身発達専攻」「教育・学習専攻」「人間行動専攻」「人間表現専攻」で行っていた専門領域での学習を保証しつつ、主指導教員1名、副指導教員2名の3名体制により、丁寧な指導が行われます。特に副指導教員は、その学生の研究内容に関連して他の学問領域から助言することが期待され、専門の枠にとらわれない独創性・創造性をもった研究を可能にします。



「人間発達専攻」の人材育成上の特色

本専攻では、人間発達にかかる豊かな知見を背景に
多世代共生型コミュニティの創成に資する人材や、
実践的職業人を養成する教育プログラムと体制を作ります。

コミュニティ創成に役立つ人材の養成 ～多彩な進路で活躍するために～

「人間発達専攻」では、包摂する学門領域の広さから、修了生には多彩な進路が予想されます。本専攻では、いずれの進路をとるにせよ、人間発達にかかる豊かな知見をもとに、多世代の人々がともに参画できる安全で安心なコミュニティの創成に役立つ人材になることを期待します。

前期課程

人間発達という視点から21世紀の諸課題に果敢に取り組み
新たな公共性の創出に貢献できる高度専門職業人を養成し
ます。

後期課程

自らの専門以外の学問領域に広く目配りしながら、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」を主体的に展開できる研究者、
大学教員を養成します。



特別な2つの履修コースの設置 ～実践的職業人を養成するために～

「人間発達専攻」では、実践的職業人の養成を目的とする特別な履修コースである「臨床心理学コース」と「1年履修コース」を、従前より引き続き置いています。

「臨床心理学コース」

臨床心理士資格認定試験の受験資格を取得できるコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めます。

「1年履修コース」

現職社会人の再教育を目的とするコースで、アクション・リサーチをととして、実践に即応した研究能力を滋養します(定員4名)。



先端的研究に協働する「研究道場」の設置 ～実践的研究力量を身につけるために～

「人間発達専攻」では、人間発達研究の特定分野において、特に優れた大学教員・研究者を養成するため、教員が共同で先端的研究を進める研究会に学生が参加し協働する体制(「研究道場」)を作ります。そこで、学生が実践的な研究力量を身につけ、研究者として早期に自立できる素養を習得するようにします。この道場への参加は、原則として前期課程1年次又は後期課程1年次において参画意欲のある学生を募った上で、主・副指導教員の判断により決定します。



「人間環境学専攻」

今回の改組で「人間環境学専攻」の体制を変更することはありませんが、引き続き、人間発達を支える新たな環境の創造と持続をめざし、さらにパワー・アップします。

4つの履修コースと教育研究分野・環境先端科学講座の設置 ～新たな環境の創造と持続のために～

人間の発達を促し、支え、助けるために、どのような環境をどのように構築し、維持すればよいのか。この問題の解明に向け、人間環境学専攻では、人間環境としての自然を対象とし、その成り立ちを明らかにしようとする「自然環境論」、数理科学を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境論」、日常生活の状況から環境のあり方を追求する「生活環境論」、社会環境に関する諸矛盾の克服を目指す「社会環境論」という4つの履修コース(前期課程)・教育研究分野(後期課程)を設け、教育と研究に取り組んでいます。また、後期課程には、これらに加え、環境先端科学講座が置かれています。



豊富な専門知識をベースとした多彩な人材の養成 ～人間環境をあらゆる分野で改善するために～

前期 課程

豊富な専門知識とそれを応用する能力、実践的行動力を有し、人間環境の改善のため、政府、自治体、民間企業、NPOなど多様な分野で活躍できる人材を養成します。

後期 課程

人間環境に関する高度な専門学識と創造的な研究能力を備える自立した研究者、または研究能力に加えて実践的な教育開発能力をもつ大学教員などを養成します。



人間発達環境学研究科のアドミッション・ポリシー

人間発達環境学研究科は、人間の発達及びそれを取り巻く環境に関わる基礎的並びに応用的・実践的な教育研究活動に主体的に参加し、これを推進する指導的役割を担える高度な専門的能力を有する人材の養成を目指しています。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間の発達や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質・能力
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、柔軟に対応できる行動力

